

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 :

製品名称 : 亜硝酸ナトリウム

製品番号 (SDS NO) : 10287jis_J-2

推奨用途及び使用上の制限

使用上の制限 : 本品は食品添加物ですので、目的以外には使用しないで下さい。

供給者の会社名称、住所及び電話番号

供給者の会社名称 : 純正化学株式会社

住所 : 埼玉県越谷市大間野町1-6

担当部署 : 品質保証部

電話番号 : 048-986-6161

FAX : 048-989-2787

e-mail address : shiyaku-t@junsei.co.jp

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類、GHSラベル要素

GHS分類

物理化学的危険性

酸化性固体 : 区分 3

健康に対する有害性

急性毒性(経口) : 区分 3

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分 2A

生殖細胞変異原性 : 区分 2

生殖毒性 : 区分 2

生殖毒性・授乳に対する又は授乳を介した影響 : 追加区分

特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分 1(血液)

特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 区分 2(血液)

環境有害性

水生環境有害性 短期(急性) : 区分 1

水生環境有害性 長期(慢性) : 区分 1

(注) 記載なきGHS分類区分 : 該当しない/分類できない

GHSラベル要素



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報

H272-火災助長のおそれ : 酸化性物質

H301-飲み込むと有毒

H319-強い眼刺激

H341-遺伝性疾患のおそれの疑い

H361-生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い

H362-授乳中の子に害を及ぼすおそれ

H370-臓器の障害

H373-長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ

H400-水生生物に非常に強い毒性

H410-長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

注意書き

安全対策

- 使用前に取扱説明書を入手すること。
- 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- 妊娠中及び授乳期中は接触を避けること。
- 環境への放出を避けること。
- 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
- 衣類及び可燃物から遠ざけること。
- 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
- 取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。
- 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
- 指定された個人用保護具を使用すること。
- この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

応急措置

- 火災の場合:指定された消火剤を使用すること。
- 漏出物を回収すること。
- 気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。
- ばく露又はばく露の懸念がある場合:医師の診察/手当てを受けること。
- ばく露又はばく露の懸念がある場合:医師に連絡すること。
- 眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- 眼の刺激が続く場合:医師の診察/手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合:口をすすぐこと。直ちに医師に連絡すること。

貯蔵

- 施錠して保管すること。

廃棄

- 内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

特定の物理的及び化学的危険性

- 酸化性がある物質である。有機物、可燃性物質を発火させる恐れがある。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別:

化学物質

- 成分名:亜硝酸ナトリウム
- 含有量 (%):97.0 <
- 化学式:NaNO₂
- 化審法番号:1-483
- CAS No.:7632-00-0
- MW:69.00
- ECNO:231-555-9

4. 応急措置

応急措置の記述

一般的な措置

- 気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。

吸入した場合

- 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- 気分が悪いときは医師に連絡すること。

皮膚(又は髪)に付着した場合

- 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。
- 皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合:医師の診察/手当てを受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合：医師の診察/手当てを受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。意識がある場合のみ、吐かせる。

コップ1-2杯の水を与えて胃内で薄める。

直ちに医師に連絡すること。

気分が悪いときは医師に連絡すること。

急性症状及び遅延性症状の最も重要な徴候症状

(吸入もしくは飲み込んだ場合の症状)

錯乱、痙攣、めまい、頭痛、吐き気、意識喪失、心拍数増加、紫色(チアノーゼ)の唇、爪及び皮膚

(皮膚に付着もしくは目に入った場合の症状)

目の充血、目の痛み

5. 火災時の措置**消火剤****適切な消火剤**

火災の場合は大量の水を使用すること。

不燃性だが、他の物質の燃焼を助長する。

使ってはならない消火剤

粉末、泡、炭酸ガス

特有の危険有害性

加熱すると容器が爆発するおそれがある。

火災によって刺激性、有毒及び/又は腐食性のガスを発生するおそれがある。

消火水や希釈水が汚染を引き起こすおそれがある。

消火を行う者への勧告**特有の消火方法**

関係者以外は安全な場所に退去させる。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

防火服又は防災服を着用すること。

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

消火作業従事者は全面型陽圧の自給式呼吸保護具を着用する。

6. 漏出時の措置**人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置**

関係者以外は近づけない。

漏洩物に触れたときは、直ちに流水で皮膚あるいは眼を最低20分間洗浄する。

回収が終わるまで十分な換気を行う。

適切な保護具を着用する。

密閉された場所に入る前に換気する。

環境に対する注意事項

上水源、河川、湖沼、海洋、地下水に漏洩しないようにする。

漏洩すると火災・爆発の危険がある。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

清浄なシャベルを用いて、清浄な乾燥した容器に入れ、ゆるく覆いをして漏洩場所から移動する。

湿らせてもよい場合は、粉塵を避けるために湿らせてから掃き入れる。

二次災害の防止策

漏出物を回収すること。

危険でなければ漏れを止める。

可燃物(木、紙、油等)は漏洩物から隔離する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

(取扱者のばく露防止)

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入してはならない。

(火災・爆発の防止)

熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。

衣類及び可燃物から遠ざけること。

(局所排気、全体換気)

排気/換気設備を設ける。

(注意事項)

皮膚に触れないようにする。

眼に入らないようにする。

安全取扱注意事項

使用前に取扱説明書を入手すること。

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

指定された個人用保護具を使用すること。

取扱中は飲食、喫煙してはならない。

可燃物(木、紙、油、布等)を発火させるおそれがある。

汚染された衣服は乾くと発火するおそれがある。

接触回避

強酸、還元性物質、アルミニウム、アンモニウム化合物、アミン、可燃性物質との接触を避けること。

衛生対策

妊娠中及び授乳期中は接触を避けること。

取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

保管

安全な保管条件

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。

涼しいところに置き、日光から遮断すること。

施錠して保管すること。

安全な容器包装材料データなし

8. ばく露防止及び保護措置

管理指標

管理濃度データなし

許容濃度

日本産衛学会の許容濃度データなし

ACGIH 許容濃度データなし

OSHA-PELデータなし

NIOSH-RELデータなし

ばく露防止

設備対策

適切な換気のある場所で取扱う。

洗眼設備を設ける。

手洗い/洗顔設備を設ける。

保護具

呼吸用保護具

呼吸用保護具を着用すること。

手の保護具

保護手袋を着用する。

手袋/個人保護具メーカーに適切な材料の選択について問合せる。

眼の保護具

側面シールド付安全メガネを着用する。

保護眼鏡/顔面保護具を着用する。

皮膚及び身体の保護具

繰返し又は長時間取扱いの場合、耐浸透性の保護衣とブーツを着用する。

9. 物理的及び化学的性質

基本的な物理的及び化学的性質に関する情報

物理状態：結晶性粉末又は粒状若しくは棒状の塊

色：白色～淡黄色

臭い：無臭

臭いの閾値データなし

pH：アルカリ性（水溶液）

沸点又は初留点：> 320°C

沸点範囲データなし

蒸発速度データなし

融点/凝固点：271°C

分解温度：> 320°C

自己促進分解温度/SADTデータなし

可燃性(ガス、液体及び固体)データなし

引火点データなし

自然発火点データなし

臨界温度データなし

爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界データなし

蒸気圧データなし

蒸気密度データなし

VOCデータなし

相対ガス密度(空気=1)データなし

20°Cでの蒸気/空気-混合物の相対密度(空気=1)データなし

密度及び/又は相対密度：2.2g/cm³

動粘度データなし

動粘性率データなし

溶解度：

水に対する溶解度：82 g/100 ml (20°C)

溶媒に対する溶解度：エタノールに溶けにくい

n-オクタノール/水分配係数：log Pow-3.7

粒子特性データなし

10. 安定性及び反応性

反応性

重合暴走反応は生じない。

化学的安定性

通常の保管条件/取扱い条件において安定である。

危険有害反応可能性

530°C以上に加熱すると、爆発することがある。

酸と接触すると分解し、有毒なフェームを生じる。

強酸化剤であり、可燃性物質や還元性物質と反応し、火災や爆発の危険をもたらす。

水溶液は弱塩基である。

アルミニウム、アンモニウム化合物、アミンと反応する。

避けるべき条件

混蝕危険物質との接触。

加熱
混触危険物質
強酸、還元性物質、アルミニウム、アンモニウム化合物、アミン、可燃性物質
危険有害な分解生成物
窒素酸化物、ナトリウム酸化物

11. 有害性情報

毒性学的影響に関する情報

急性毒性

急性毒性(経口)

[日本公表根拠データ]

rat LD50=77~150mg/kg (SIDS, 2005)

局所効果

皮膚腐食性/刺激性

[日本公表根拠データ]

ラビット: 刺激なし (SIDS, 2005)

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

[日本公表根拠データ]

ラビット: 中等度の刺激性 (SIDS, 2005)

呼吸器感受性又は皮膚感受性データなし

生殖細胞変異原性

[日本公表根拠データ]

cat. 2; IARC 94, 2010

発がん性データなし

生殖毒性

[日本公表根拠データ]

cat. 2; SIDS, 2005

追加区分; SIDS, 2005

特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

[区分1]

[日本公表根拠データ]

血液 (SIDS, 2005)

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

[区分2]

[日本公表根拠データ]

血液 (NTP TR 495, 2001)

誤えん有害性データなし

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性

H400-水生生物に非常に強い毒性

H410-長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

水生環境有害性 短期(急性)

[日本公表根拠データ]

魚類 (ニジマス) LC50=0.54mg/L/96hr (SIDS, 2006)

水溶解度

82 g/100 ml (20°C) (ICSC, 2000)

残留性・分解性

残留性・分解性データなし

生体蓄積性

log Pow=-3.7 (ICSC, 2000)

土壤中の移動性

土壤中の移動性データなし

他の有害影響

オゾン層への有害性データなし

13. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報
廃棄物の処理方法

環境への放出を避けること。

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

中身及び容器の廃棄は、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の処理業者に依頼する。

14. 輸送上の注意

国連番号、国連分類

国連番号：1500

正式輸送名：亜硝酸ナトリウム

分類または区分：5.1

副次危険：6.1

容器等級：III

指針番号：140

IMDG Code (国際海上危険物規程)

国連番号：1500

正式輸送名：亜硝酸ナトリウム

分類または区分：5.1

副次危険：6.1

容器等級：III

IATA 航空危険物規則書

国連番号：1500

正式輸送名：亜硝酸ナトリウム

分類または区分：5.1

副次危険：6.1

危険性ラベル：Oxidizer & Toxic

容器等級：III

環境有害性

MARPOL条約附属書III - 個品有害物質による汚染防止

海洋汚染物質 (該当/非該当): 該当

国内規制がある場合の規制情報

船舶安全法

酸化性物質類 酸化性物質 分類5 区分5.1

航空法

酸化性物質類 酸化性物質 分類5 区分5.1

15. 適用法令

当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令
毒物及び劇物取締法

劇物(令第2条)

亜硝酸ナトリウム(法令番号 2) 包装等級III

労働安全衛生法に該当しない。

化学物質管理促進(PRTR)法に該当しない。

消防法

第1類 酸化性固体 危険等級 I(指定数量 50kg)

環境有害性

MARPOL条約附属書V - 廃物排出による汚染防止

水生環境有害性: 短期(急性) 区分1 該当物質

亜硝酸ナトリウム

水生環境有害性: 長期(慢性) 区分1, 2 該当物質

亜硝酸ナトリウム

バルク輸送におけるMARPOL条約附属書II 改訂有害液体物質及びIBCコード

有害液体物質(Y類)

亜硝酸ナトリウム

水質汚濁防止法

有害物質

亜硝酸ナトリウム

法令番号 26: C 100mg-(40%のアンモニア性+亜硝酸性+硝酸性)窒素/liter

適用法規情報

輸出貿易管理令

別表第1の16の項

記載した法規情報は意図的成分に関するものです。非意図的成分やサプライヤから開示を受けていない不純物に関する情報は含まれていません。

16. その他の情報

参考文献

Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, (6th ed., 2015), UN

Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 20th edit., 2017 UN

IMDG Code, 2018 Edition (Incorporating Amendment 39-18)

IATA 航空危険物規則書 第61版 (2020年)

Classification, labelling and packaging of substances and mixtures (Table 3 ECNO6182012)

2016 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK (US DOT)

2019 TLVs and BEIs. (ACGIH)

<http://monographs.iarc.fr/ENG/Classification/index.php>

JIS Z 7253 : 2019

JIS Z 7252 : 2019

2019 許容濃度等の勧告 (日本産業衛生学会)

Supplier's data/information

化学品安全データ管理システム "GHS Assistant" (<https://www.asahi-ghs.com/>)NITE 化学物質総合情報提供システム (NITE-CHRIP) <http://www.safe.nite.go.jp/japan/db.html>

事業者向けGHS分類ガイダンス (平成25年度改訂版, 経済産業省)

責任の限定について

本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によって改訂される事があります。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用ください。

ここに記載されたデータは最新の知識及び経験に基づいたものです。安全性データシートの目的は当該製品を安全に取り扱って頂くための情報を提供するものです。ここに記載されたデータは製品の性能について何ら保証するものではありません。

ここに記載したGHS分類区分の算定根拠は現時点における日本公表データ (NITE 平成30年度)です。